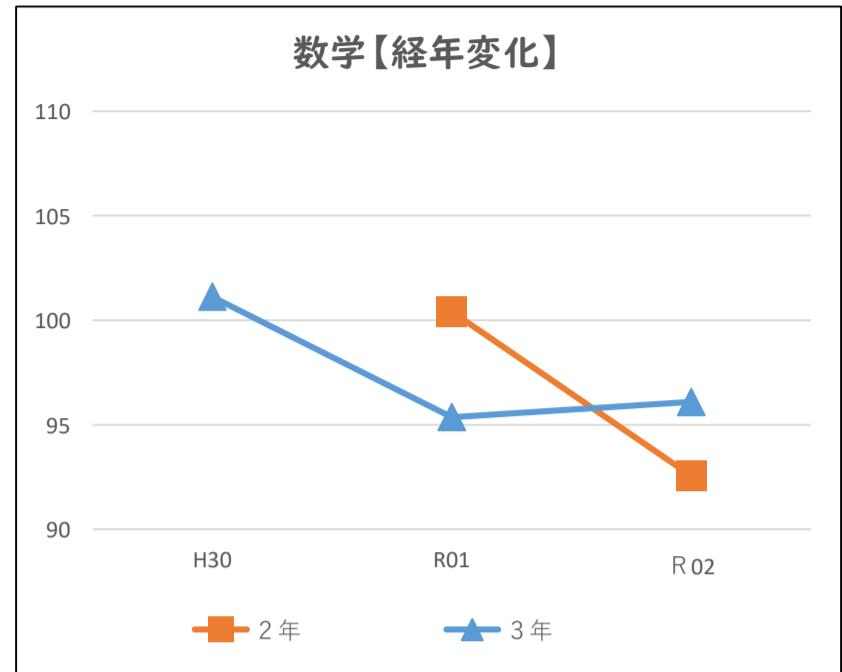
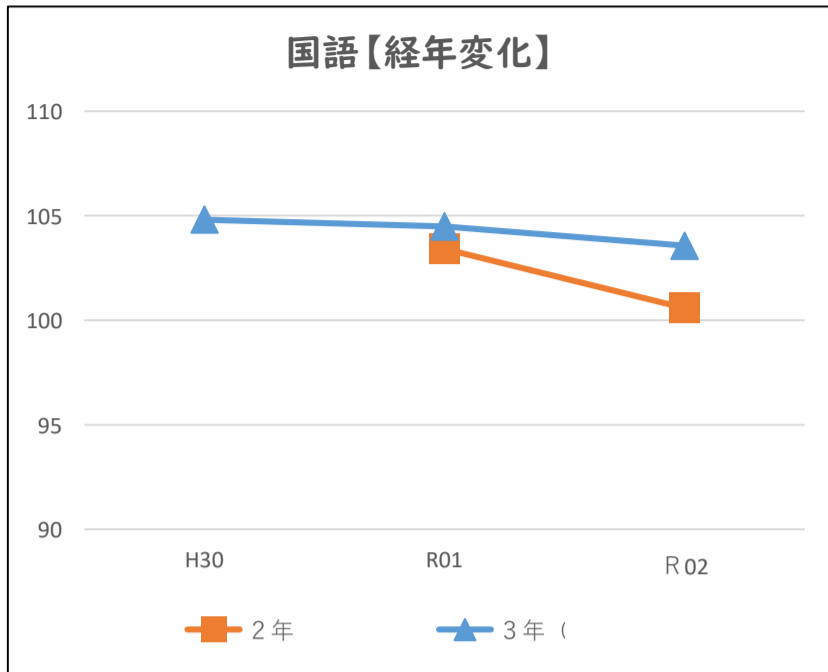


I 令和2年度末までの学力の状況把握(令和2年度 釧路市標準学力検査より)  
各学年の経年変化(目標値を100としたときの、各学年の状況)



※釧路市標準学力検査結果の経年変化や到達度の割合から見られる各学年の特徴・成果・課題等

○1年生【現2年生】の国語では、目標値を上回っているが、前年度と比較すると2.8ポイント減少している。到達度を見ると上位層が少なく、中から下位層の割合が多い。

○1年生【現2年生】の数学では、前年度(小6)と比較すると7.8ポイント下がり、目標値を大きく下回った。到達度を見ると評定2以下の割合が52%である。

○2年生【現3年生】の国語では、経年で比較すると若干右下がりではあるが、目標値を上回る結果を継続している。到達度を見ると上から中位層の割合が高い。

○2年生【現3年生】の数学では、昨年度より0.7ポイント増加した。到達度を見ると下位層の割合は標準の数値とほぼ同値であるが、5の割合が低い。

II 各学年における成果と課題、令和3年度の取組

(○:成果 △:課題 ◇:継続する取組 □:新規の取組 ◎:改善する取組)

		今後の取組について	
1年生	国語	□(例)1年生の国語では、条件作文の取り組みで、「書くこと」の定着を図る。	
	数学	□(例)1年生の算数では、具体的な事象における数量の関係を捉え、比例式で表すこと等、1次方程式の理解・定着を図る。	
		成果と課題について	今後の取組について
2年生	国語	<p>○2年成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年までに学習した漢字の読みや小学校までに学習した漢字を書くことについては、小テストの継続的な実施が成果となって現れていると考える。</li> <li>・文法・語句に関する知識については、授業での繰り返し指導の成果が現れており、伝統的な言語文化と国語の特質について定着が図られていると考えられる。</li> </ul> <p>△2年課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定された文字数で書くことや文章の内容に沿ったまとめを書くこと等、書くことについて課題が見られる。</li> </ul>	<p>◇2年国語継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。</li> <li>以下に示す学習過程の実践。</li> <li>①生徒が課題解決のために思考・判断・表現することを促す課題を提示する。</li> <li>②生徒が個人思考した結果を表現し合い、学びを深める時間を保障する。</li> <li>③「見通し」と「振り返り」を位置づける。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の小テスト</li> <li>□2年国語新規</li> <li>・ICT機器の活用・WEBシステム教科用フォローアップ問題の実施</li> <li>◎2年国語改善</li> <li>・意味調べなど語彙力を高める取組</li> </ul>
	数学	<p>○2年数学成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに学習する負の数の加法や文字式の表し方、絶対値などは目標値を上回っている。</li> </ul> <p>△2年数学課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1次方程式、比例・反比例については、目標値を上回る設問は一つもなかった。数学の基礎基本の定着に課題が見られた。</li> </ul>	<p>◇2年数学継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。</li> <li>以下に示す学習過程の実践。</li> <li>①生徒が課題解決のために思考・判断・表現することを促す課題を提示する。</li> <li>②生徒が個人思考した結果を表現し合い、学びを深める時間を保障する。</li> <li>③「見通し」と「振り返り」を位置づける。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>□2年数学新規</li> <li>家庭学習の励行につながるような課題提示を意図的に仕掛けることで、家庭学習の習慣化を図りたい。</li> <li>・ICT機器の活用・WEBシステム教科用フォローアップ問題の実施</li> <li>◎2年数学改善</li> <li>家庭学習の励行につながるような課題提示を意図的に仕掛けることで、家庭学習の習慣化を図りたい。</li> </ul>
3年生	国語	<p>○3年国語成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の読み、書きに関しては、継続的な小テストの取組が成果となって現れている。</li> <li>・指定された文字数や段落構成で書くことや、読み取った内容を明確にして書く等、書くことについての正答率が高い。</li> </ul> <p>△3年国語課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをもち、質問することや行書の理解について課題が見られた。</li> </ul>	<p>◇3年国語継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。</li> <li>以下に示す学習過程の実践。</li> <li>①生徒が課題解決のために思考・判断・表現することを促す課題を提示する。</li> <li>②生徒が個人思考した結果を表現し合い、学びを深める時間を保障する。</li> <li>③「見通し」と「振り返り」を位置づける。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の小テスト・条件作文</li> <li>□3年国語新規</li> <li>・ICT機器の活用・WEBシステム教科用フォローアップ問題の実施</li> <li>◎3年国語改善</li> <li>・聞く力を伸ばすため、聞き取り問題の取組等を行う。</li> </ul>
	数学	<p>○3年数学成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別少人数指導の成果が少しずつ現れてきている。</li> <li>・図形領域は、貼りものや図示、ICTの活用により昨年同様目標値を大きく上回った。</li> </ul> <p>△3年数学課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎部分では、ほぼ目標値に近い程度の理解を示しているが、活用的な部分では、特に関数領域において表とグラフ、式を関連付けて考える力が弱い。</li> </ul>	<p>◇3年数学継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。</li> <li>以下に示す学習過程の実践。</li> <li>①生徒が課題解決のために思考・判断・表現することを促す課題を提示する。</li> <li>②生徒が個人思考した結果を表現し合い、学びを深める時間を保障する。</li> <li>③「見通し」と「振り返り」を位置づける。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>□3年数学新規</li> <li>家庭学習の励行につながるような課題提示を意図的に仕掛けることで、家庭学習の習慣化を図りたい。</li> <li>・ICT機器の活用・WEBシステム教科用フォローアップ問題の実施</li> <li>◎3年数学改善</li> <li>家庭学習の励行につながるような課題提示を意図的に仕掛けることで、家庭学習の習慣化を図りたい。</li> </ul>

### Ⅲ 学校全体における成果と課題、今後の取り組みについて

#### ① 成果と課題について

(授業づくり・環境づくり・習慣づくり) ○:成果 △:課題

#### ② 改善の方向性について

※5W1Hで明記

(◇:継続する取組, □:新規の取組, ◎改善する取組 等)

<p>授業づくり</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善を目指し、「課題提示」「まとめ」「振り返り」等に取り組み、授業づくりの充実を図ることができた。</p> <p>○授業評価では、「課題提示」「自ら考える」について高い評価を得た。</p> <p>△今年度の研修では「主体的に学習に取り組む態度」の育成を目指し、授業づくりに取り組んだが、課題の妥当性(まとめとの整合性)に課題が見られた。</p> <p>△家庭学習につながる授業づくりに課題が見られた。</p>	<p>◇次年度は、引き続き「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。</p> <p>①生徒が解決に向けて思考・判断・表現することを促す課題の提示。</p> <p>②生徒が個人思考した結果を表現しあう時間の保障。</p> <p>③単元における「見通し」と「振り返り」の位置づけ。</p> <p>□ICT機器の活用を図り、生徒が課題解決に向けて思考・判断・表現する場の設定を充実させる。</p> <p>◎校内研修においては、研究主題に沿った授業づくりの中で、ICT機器活用の充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」へとつなげる。</p>
<p>環境づくり</p> <p>○定期テスト前後の自学自習時間の確保によって、テストに向かう意識が向上してきている。</p> <p>○放課後学習サポートの実施により、「自学自習」の意識が高まりつつある。</p> <p>△コロナ対応時程で、朝学習の時間が確保できなかった。</p> <p>△家庭学習に取り組むことができるプリントの棚を設置しているが、定着に差がある。</p>	<p>◇定期テスト前後の放課後学習</p> <p>◇放課後学習サポートの啓発を行い、参加生徒を増やすとともに授業の振り返りや家庭学習につながる学習活動を目指す。</p> <p>□一人1台端末を利用した朝学習や放課後学習</p> <p>□一人1台端末を利用した「ドリル」の活用</p> <p>◎朝学習時間の設定をし、一人1台端末で自学自習を実施する。</p> <p>◎プリント棚の廃止</p>
<p>習慣づくり</p> <p>○テスト前の放課後学習の実施により、テスト勉強の習慣化が図られている。</p> <p>○週1回の放課後学習サポートが定着しつつあり、学習する習慣づくりにつながっている。</p> <p>△学校評価や授業評価における家庭学習の習慣化については課題が多い。</p>	<p>◇テスト前の放課後学習</p> <p>◇放課後学習サポートの実施</p> <p>□家庭学習の定着を図るため。スマホやゲームの時間や決まり事について啓発を行い、生活習慣の改善を目指す。</p> <p>◎家庭学習ノートの提出から一人1台端末を用いた家庭学習の提出へと移行して行く。</p>

※必要に応じて高さを調節してください。

※3つの視点において、成果と課題を整理してください。また、課題については、具体的な記載をお願いします。

※改善の方向性については、「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どのように」行うのか。また「その理由」についても記載してください。